

令和８年度 第１回 多治見市スポーツ推進審議会 会議録	
日 時	令和８年８月２７日（木）１５時００分～１６時３０分
会 場	多治見市文化会館 ２階練習室３
出席委員 （敬称略）	小栗 和雄（会長）、田辺 敦啓（副会長）、中嶋 茂、青山 雄一、稲山 竜太、 片山 あけみ、杉田 幸博、安藤 秀章
欠席委員	鈴木 恵美子
事 務 局	環境文化部：岩田部長 文化スポーツ課：水野課長、伊藤ＧＬ、荒川
傍 聴 人	—
会議録要旨	
１ 開会	
	挨拶（環境文化部長）
２ 委員任命について	
	事務局 任命状配布 事務局紹介、各委員一言
資料の確認、委員会の流れの説明	
	事務局 委員総数９名のところ過半数の８名が出席のため、多治見市スポーツ推進審議会条 （水野） 例第７条第２項の規定により、成立することを報告。
３ 会長選任	
	会長：小栗和雄委員 副会長田辺敦啓委員 選任
４ 議題（１）「第３期多治見市生涯スポーツ推進プラン進捗状況	
	小栗会長 事務局に説明を求める。
	事務局 議題（１）について説明（資料１、資料２） （荒川） ・評価概要説明 各事業に対して各担当課で実施した内容を総合して１事業とした ・「単年度評価」及び「全体計画への見通し」の２つの観点から、各事業を１点満点 で採点、施策単位ごとに達成度を算出した。 全体達成率は９７．１％と非常に高い結果となった。 ・基本方針１：達成率１００％と高い数値となった。多治見市身体障害者協会と協力し 開催した「ボッチャ交流会」は笠原小・中学生が初参加。TYK 競技場は夜の無料開放 （市民広場）を実施、TYK スポーツパークにて市民参加型のイベントを実施する等、 幅広い世代に対するアプローチを実施。 ・基本方針２：達成率 ９０．９％。アスリート派遣事業へ３校のエントリーを行ったが 全校抽選漏れとなったことや、「ジュニアスポーツにおける指導者不足への対応」に ついてスポーツ指導者養成講習会修了者が指導者登録システムに登録される仕組み を構築したものの、指導者とジュニアクラブとのマッチングについては継続して課 題となっている。 ・基本方針３：達成率 １００％と高い数値となった。複数のトップアスリートを招へい

	し試合や交流戦を実施し、市民が高いレベルの技術を体感することでスポーツへの意欲向上につながったと評価している。
	〈質疑応答〉
青山委員	小中学校での外部指導者の活用について、外部指導者を1時限分だけ派遣してもあまり効果を感じない、そのあとにつながらないのではと感じている。
稲山委員	授業で体験してスポーツを楽しいと感じたらその後のクラブ活動への参加などにつながっていくと思うのでそのきっかけとなる時点で大いに意義があるものだと思うが、せっかく関心をもった種目をさらに続けていくための土台をしっかりと作っていくとより良いものになるのではないかと思う。
青山委員	外部指導者の派遣については手続きが大変だった印象がある。そのうえで保健体育科目の教員にも負担をかけることを考えたときにそれに対して実際の効果がどうなのかと思うとなかなか今後も活用は難しい。 また、実績について確認だが、多治見市内で3校がアスリート派遣事業にエントリーして、県内での抽選から全て漏れたという理解でよいか。
事務局 (荒川)	その理解でよい。各県ごとに枠が決まっており、各市町村がエントリーする中で多治見市の3校が全て落選したもの。採点については結果論によるところもあり、令和8年度については既に陶都中学校にて派遣を活用する報告を受けている。
小栗会長	ジュニアクラブの地域移行の推進についてはどのような状況か。外部講師の登録を進めても組織の構造がしっかりしていないとマッチングにつながりにくいのでは。
事務局 (水野)	現在、教育委員会と協議しながら今後の政策方針を検討している。本市は既に部活の地域移行は終了していると認識している。しかし、全国的には現在も地域移行を推進しているところであり、それに対する補助制度を国が設けた。 既存の地域クラブについても費用の補助を求める声は多く受けており、国の定める基準に合った団体については「認定クラブ」として補助金を交付していこうという政策を令和9年4月1日以降実施に向けて準備している。 外部指導者の確保については以前より問題視しており、スポーツ協会に委託して指導者登録を促しているところだが、実際にマッチングしたとケースが1件もないため、別のアプローチを検討する必要があると考えている。具体的にはマッチングのための情報を整理したサイトの構築などを検討している。
小栗会長	部活動の地域移行については中学校の立場からすると完全に完了したという認識でいいか。
青山委員	部活動自体は完全に地域移行を完了しているという認識をしている。ただ、地域クラブと保護者主体のジュニアクラブが混在している状況は解決していない。 認定地域クラブに対する補助金とはどのようなものか。施設利用に対する補助なのか、指導者に対する補助なのか。
事務局 (水野)	補助対象については施設利用料や外部講師料、備品の購入費等広く充てられる。ただし、補助率に上限があることと、教育からの派生ということもあり活動時間等の条件の縛りが厳しいことや申請書類の調製など利用者にとってハードルが高い印象がある。

田辺副会長	部活動が地域移行により中体連の参加チームが約 1/4 になったという話を聞いた。全体の競技力低下につながる改悪なのではないか。
青山委員	競技人口が減り競技力が低下していることは確か。しかし、地域クラブとなり、少数精鋭で多くの指導者から指導を受けられるという点ではメリットでもある。
小栗会長	昔は、中学生は全員部活に入らなければいけなかった。今は意欲のある者のみが地域クラブに加入し活動している、その結果全体の競技人口が減っているという状況だと推測される。
事務局 (水野)	認定地域クラブは部活動からの派生なので、どうしても制限が多く、競技志向が強いチームは対象とならないケースも多い。認定地域クラブとして補助金をもらい活動するか、従来通り制限に縛られず活動するか、選択肢が広がるという認識をしてもらいたい。
小栗会長	普及型のクラブ活動を整備したい国の意向と、経済面や保護者の負担から、どうしても選別されたやる気のある子のみが集まって活動している地域クラブの現状の矛盾は全国的にある。市としてより多くの人にスポーツに触れてもらうことができるようにどのように政策をたてていくかが課題。
青山委員	ジュニアクラブは保護者の負担が大きいから入れないという話をよく聞く。今後ジュニアクラブが認定地域クラブに移行する中で、経済的な面も含めて保護者の負担が軽減されていくといいと思っているが、市としてはどう考えているか。
事務局 (水野)	教育委員会としては、保護者の負担を軽減するような補助制度を整える方向で動いていくと思われる。ただ、一定数地域認定クラブ化が難しいジュニアクラブも出てくると思うため、我々としては学校施設の利用に関して、認定地域クラブとジュニアクラブに差異は設けない想定でいる。
田辺副会長	評価に減点のある基本方針2について減点理由の詳細を知りたい。
事務局 (荒川)	2事業で減点されている。1つは小中学校での外部指導者活用支援、昨年度派遣事業にエントリーしたものの全て抽選漏れになり、活用実績は 0 のため減点対象とした。 2つ目は指導者等の育成及びスポーツ少年団活動の支援、指導者バンクとクラブとのマッチング実績がなかったことから減点とした。
片山委員	小学校までは地域のジュニアクラブで活動していた子たちが中学校に上がると市外の活動に力を入れている地域クラブに流れて行ってしまう。保護者の負担などから多治見市に残って活動している子たちと社会人の地域クラブで合同で練習するような機会をつくるなど工夫をしているが、今後地元でスポーツを続ける子たちが一層減っていつてしまうのではという不安がある。
議題（2）「令和7年度スポーツ事業 進捗報告」	
小栗会長	事務局に説明を求める。
事務局 (荒川)	議題（2）について説明（資料3） 令和7年の活動実績報告及び令和8年度の活動報告（予定含む） ・軽スポーツの普及活動について（スポーツ推進委員、うながっポーツの日） ・施設管理状況について（TYK スポーツパークリニューアル、TYK 競技場改修、スケートボード場拡張工事、2 球場改修 等）

	トップアスリート事業（中部実業団、リーグ H、T リーグ、JAPAN GP 等） ・市主催交流事業（ボッチャ交流会、市民パドルテニス大会、市民スポーツ大会 他） ・指導者講習会 ・子ども向けスポーツ教室 ・認定地域クラブ
	〈質疑応答〉
稲山委員	滝呂球場等の改修工事について、中京学院大学の移転開学については市のスポーツ分野においても大きなことメリットであると認識している。市として今回の施設改修及び大学移転が市民にどのような恩恵を与えていると考えているか。
事務局 (水野)	まずは市民の方の利用においても施設の仕様が向上しより快適な環境になること。野球教室等、初心者向けのスポーツ教室のような中京学院大学と連携した取り組みも大学と調整しながら今後積極的に検討していけたらと考えている。
杉田委員	中京学院大学のメイン練習場になると、市民の一般利用にはどのような影響があるのか。市民球場を整備して中京学院大学の専用球場になってしまえば市民にとっては本末転倒なのでは。
事務局 (水野)	大学及び関係団体と年間利用計画で調整していくことになる。中京学院大学は他の利用が少ない平日と土・日どちらかの利用を希望されており、調整可能と考えている。
田辺委員	3点確認したい ・滝呂球場の大きさだと強豪大学が練習すれば簡単に場外に球が出てしまうと思うが、近隣住民への配慮はどう考えているか。 ・TYK 球場(特に女子トイレ)の整備について今後検討はされているか。 ・中京学院大学レスリング部の練習場をどう考えているか。
事務局 (水野)	・滝呂球場については練習の仕方では場外に球が出ていかないように工夫してもらうように大学に依頼している。遊歩道の一部が危険なため、安全なテニスコート内を歩行してもらうようにする。 ・TYK 球場(女子トイレ)については、現時点では整備の検討はしていない。 ・レスリング部の練習場については、大学側から直接的な相談を受けていないため現時点では検討していない。
小栗会長	大学移転については、交流機会等の創出もメリットとしてあるが、現在の課題である指導者不足についても効果的だと思われる。 今後市として大学の生徒に協力をお願いする機会は多方面でかなり増えてくるとと思われる。
安藤委員	東京オリンピックの影響で障がい者のスポーツについてもかなり理解関心が高まっている。冬季オリンピックに多治見市出身の鶴飼選手が出場することや、10 月の全国障害者スポーツ大会にも多治見市の方の出場が決まったように、市内でも障がい者スポーツがかなりさかんになってきている。 ボッチャ交流会については、昨年度初めて笠原小中学校の生徒にも参加していただいた。今後より範囲を広げていければと考えている。
小栗会長	アーバンスポーツ施設がこれだけ充実している市は珍しい。スケートボード場は拡張工事を行うとのことだが、大会等の実施も可能な施設なのか。

事務局 (伊藤)	大会の規模にもよると思うが、3×3 バasketコートやスケートボード場での開催の検討も可能だと思われる。ただ、アーバンスポーツは音響などの演出もセットになってくると思うため、近隣住民からの理解が得られるかなどの課題はある。
事務局 (水野)	スケートボード場については愛好団体と意見交換をしながら、中級向けのセクションを増やし、小規模の大会等ができるようなものにしようと考えている。大会に市外の人が参加してもらうことでスポーツツーリズムにつながればと考えている。
議題（3）「その他（情報提供）」	
小栗会長	事務局に説明を求める。
事務局 (荒川)	議題（3）について説明（資料4、資料5） ・令和8年度スポーツ大会等事業計画の共有 ・学校開放施設及び体育施設の利用状況共有 学校開放施設（特に体育館）の利用率はかなり高い。屋外施設については特に昨年度集約化したこともあり星ヶ台テニスコートの利用者数が増加している。 今後中京学院大学が移転することで体育館、屋外体育施設ともに利用状況に変化が出てくると思われる。
片山委員	星ヶ台テニスコートについてかなり好評の声を聞いている。特に大きい大会ができる施設になったことがありがたい。
事務局 (水野)	今回の審議においては、長期的な課題もあり、近々の課題もいただいた。より良いスポーツの推進につなげられるよう取組を進めていく。
5 今後のスケジュールについて	
事務局 (荒川)	計画見直しの年度などは回数変動する可能性があるが、基本は年1回の開催を考えている。次回開催は来年度の同時期で予定している。
(水野)	全ての次第が終了したため、これをもって委員会を閉会する。
<会議終了>	